

北東アジア研究交流ネットワーク



ニューズレター

第 11 号

論文			
アジア地域統合の新機軸を求めて	天 児 慧	1	
北東アジア研究と私			
アジア太平洋時代の米中関係と日本外交を考察	佐 藤 嘉 恭	6	
政策セミナー・発表要旨			11
第18回 NEASE-Net 政策セミナー			
編集後記			12

論文

アジア地域統合の新機軸を求めて*

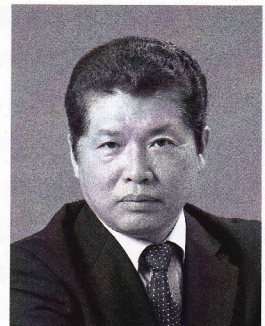
早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授 天 児 慧

アジア太平洋の国際構造認識

今日のアジアを中心とした国際情勢をどう理解すべきか。3つの特徴が突出している。第1は国際システムの変化である。第2はグローバル化のリージョナル化である。そして第3は中国の急激な台頭である。まず第1の特徴から見ていこう。国際システムは20世紀において冷戦体制、覇権主義体制など様々な言葉が用いられてきた。しかし冷戦体制は崩壊した。今日に至るまでもっとも長く生き続けている国際システムの表現は、ウェストファリア・システム＝国民国家体制である。それは戦乱の続くヨーロッパにおいて30年戦争が終わった1648年、領土などを固定化し国家を国際社会の主体とし安定した国際秩序を実現しようとしたものであった。

その後ヨーロッパ各国の世界的な台頭とともに、このシステムも世界に拡大していった。この国民国家体制は言い換えるなら国際社会における最高意思の主体を国家と見なし、内政不干渉などを取り決め国家間の約束事によって国際秩序を形成しようとする国民国家体制 (Nation-State System) である。周知のように今日でも「国民国家 (Nation-State) 体制」は依然否定されてはおらず、厳然と主要なアクターの地位を保持している。

しかし他方で近年、経済・情報を軸としながらあらゆる



*この論文は、2011年2月12日に開催された NEASE-Net 第17回政策セミナーでの報告「胡錦濤体制から習近平体制へ—権力移行期の中国対外政策を展望—」の内容に対応したものです。